

筑波大学法科大学院

令和8年度入学者選抜 法学未修者コース筆記試験

未修者コースの筆記試験では、読解力、論理的思考力、分析力、論述能力をみます。法律の専門知識を問うことはありませんが、法的分野に関連する問題が出ることはあります。

《出題趣旨》

【第1問】

筆者は、「歴史修正主義は、表面上は歴史の問題を扱っていても、本質的には政治的・社会的な現象である。人々が引き寄せられる動機やきっかけはさまざまで、歴史とは無関係の個人的な利害など、まったく別の力学で言説が維持されることもある」との考えのもと、改めて、「歴史学の観点から歴史とはどのように記されるのか、その基本的な姿勢や手段について」整理を行う。設問1は、筆者による歴史学の基本的な姿勢や手段に関する解説を踏まえて、筆者の考える歴史の「真実」と「事実」の違いを理解できているかを問うものである。

また、筆者は、「歴史を政治の手段とすることを是とする人」による「歴史の政治利用の何がいけないのか」という問いに対し、歴史的・政治的・法的な観点から答えることを試みている。設問2は、筆者のそのような試みについて、受験生自身がどのように考え、説得的な文章を記述することができているか、受験生自身の思考力や記述力を問うものである。

【第2問】

現代の日本人が抱える思想的課題に鋭く切り込んだ原著（その一部）を読み、著者の主張（その一部＝現代の日本人は、敗戦を契機に省みられなくなった「戦争の死者」を取り戻し、「我々の死者」とする「困難」に向き合う必要がある。）を適切に纏めることができるかを問うこととした。

また、いまひとつの著者の主張である、現代の日本人は、「未来の他者」への感度を高めるために、なぜ「我々の死者」を取り戻すこと、換言すれば、なぜ「トカトントン」を克服することが必要なのか、その理由を、抜粋した文章ないし設問1に関する自らの解答から論理的に説明し、以て、引用原著についての受験者の理解力に加え、分析力や表現力を問うこととした。